

第30号

ボランティアの輪を広げよう

—発行—

糸魚川市ボランティアセンター
糸魚川市ボランティア
連絡協議会
(糸魚川市社会福祉協議会内)
新潟県糸魚川市寺町4-3-1
TEL (025) 552-7700
FAX (025) 553-1657

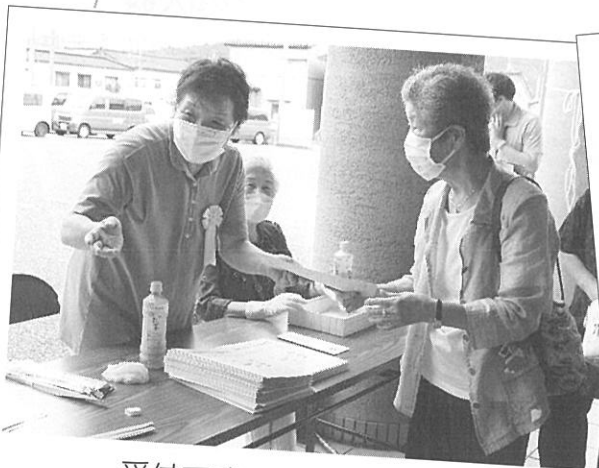
糸魚川市 ボランティアだより

第16回

ボランティアフェスティバル

令和4年

8月27日(土) 12:00~13:00 会場 ビーチホールまがたま



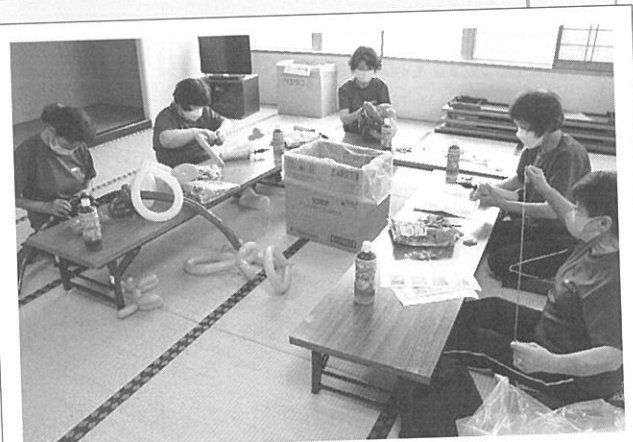
受付です。こちらへどうぞ。



福祉作業所の皆さんの作品です。いかがですか!



お菓子もあっという間に完売しました。



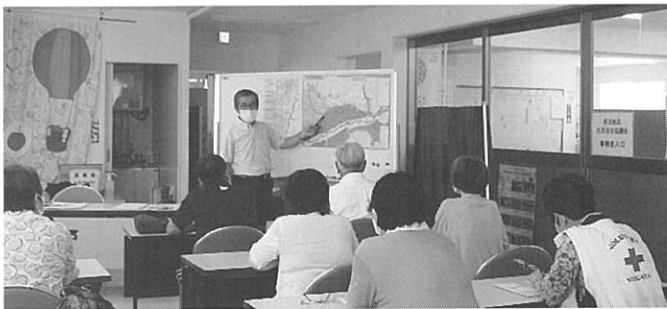
お土産用のバルーンアート作り。心をこめて。

災害関連学習会及び 三地区合同自主研修会に参加して

こしおうみひのきしん会 齋藤拓雄

6月24日合同で災害関連学習会を開催する事に成り、糸魚川市社会福祉協議会長を含め25名の参加者で、令和元年台風19号により千曲川の堤防が決壊し被災した長野市長沼地区の水害被害地へ行くことになりました。

糸魚川市でも長沼地区へ災害ボランティアバスを出し、大勢の参加者がありました。長沼地区へ入ると、泥の中へ入り、一輪車へ積み込み排出した事が思い出され、災害の怖さを痛感しました。



長野市の説明を受ける

長野県社協の災害関連スタッフより復興のお話を聞かせて頂きました。私達も長沼地区へは何回もボランティアに参加させて頂いたので、復興のお話は、非常に参考になりました。

又、台風19号により決壊した千曲川の現場を視察しました。決壊の現場が頑丈な堤防に復興を遂げている姿を見ていると、うれしく感じました。

私は災害ボランティアの隊員だったので、仙台市や陸前高田市へ7~8回も出勤したので津波災害の怖さが思い浮かべられ感無量になりました。やはり災害はこわいなと思います。東京に近い事が復興のスピードを速めている事も分かりました。近郷でこの様な災害が起きた時には、糸魚川市の社協でも有志者を募って参加できる体制の整備が必要ではないかと思ひます。

糸魚川市駅北火災の時には、長野県の方が毎日、ボランティアに来てくれました。長野県の方に御礼の言葉を言う事が出来ました。お昼は「丸八たきや」でそばを食べました。丁度、長野善光寺では御開帳が月末まで開催されるというので、参拝させて頂く事が出来ました。

当日は真夏のような暑さになりました。参拝者も大勢いるため待ち時間が長くなり途中でやめる人もいました。

合同ボランティア協議会の研修会を開催出来良かったと思ひます。

災救隊の記録

県社協からの要請などで災救隊は関川村に行くことに成り、8月13日に上越支部から6名の参加者で出発し、新潟市の災救隊本部で一泊した。そして翌日14日朝早々に、関川村ボランティアセンターに到着し、本隊は禅宗のお寺へ、私たちのチームは7名で民家の床下に堆積した泥を何時もの手慣れた方法でバケツに取り、手渡しで外へ排出する作業を行った。



福祉講座(涙活)に参加して

糸魚川手話サークル 池亀敏美

涙活という言葉を知りました。自分の中で思っていたこととは少し違いましたが、涙がストレスと関係があるんだということがわかりました。

現代はストレス社会と言われてます。常に人間はリラックス状態がいいのですが、やはり生きてる以上色々なことがあります。人の死に遭遇すると本当に悲しくて、涙が溢れて止まりません。悲しいドラマを見て涙が自然に出ることもあります。楽しい番組を見てお腹を抱えて涙が出ることもあります。人はそれぞれ感じ方が違いますが、感情の豊かなひと・喜怒哀楽が豊富な人はより

いいのかと感じました。泣くのは脳にとってとてもいいことだと理解できましたし、医学的なところまでにも発展し免疫力が高まり、感染症をブロックするという大変な効果があるという事も知りました。

今回の吉田先生のお話を聞いて「涙活」は新しいストレス解消法のひとつだと思ひ実践していきたいと思ひました。



涙活とは
2~3分だけでも
能動的に涙を流す
ことにより
心のデトックスを
図る活動

災害地「長沼」を訪れて

いとよ朗読奉仕会 安田初恵

「えっ。テレビで見たあの長沼だよ。」

と、見事に復興した堤防に立った時の思いです。

今回の見学学習で、長沼の復興に至るまでのお話をお聞きする事ができました。

また、様々な災害ボランティア活動がある事を知りました。

そのボランティアの方々を総括し、活動された方からこんなお話がありました。

ボランティアを受け入れる住民から「受け入れると接待をしなければならないし、家の中に入ってもらいたくない。」という言葉でしたが、そんな不安一杯の住民の言葉に耳を傾け、話を聞いたり、ボランティアの仕事の割り振りをしたりで、大変ご苦労されたお話も聞きました。

そんなお話を聞く中で、日頃から地域の方々との関わり方がとても大切だと痛感しました。

そして災害が発生する前から、訓練や防災に関わる話



を聞く事により、自分や他者の命を守る事に繋がると思いました。

また堤防を歩いている時に、こんな心暖まるお話も聞きました。「あの白い建物、ヤマト運送会社の方々が大事なトラックを全て外に出し、住民の避難場として提供してくださり、本当に助かりましたよ。」

こんなお話から、更に災害に当たり一人ひとりの心構え、そして助け合う心を持つ事の大切さ等、多くの事を学びました。

よみがえった童心(バルーンアート講座)

糸魚川ライオンズクラブ 相澤淑子

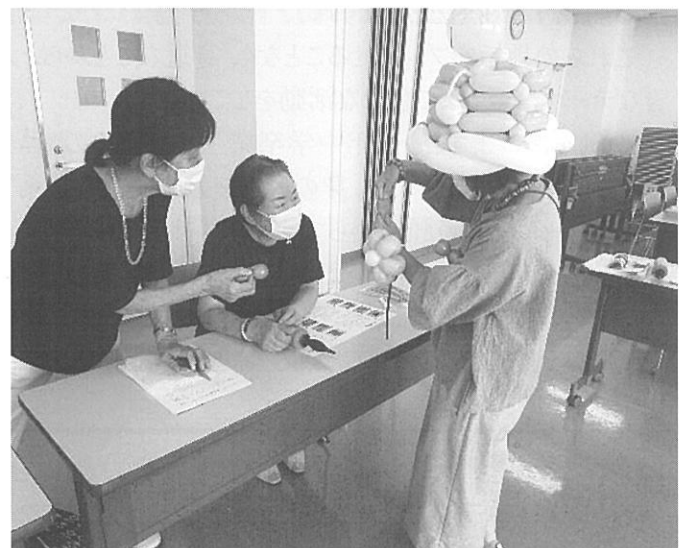
「お祭り!!」なんと懐かしく心ときめく情景でしょう。しかしコロナ禍の影響でここしばらく糸魚川地域は勿論、日本のどこからも「お祭り」の言葉が聞かれなくなって久しい。

でも、思い出しますね。縁日の並ぶなかを、得意気な笑顔いっぱいの子どもたちの手にしっかりと握られていた大きな大きな風船を。

でもふと見上げるとピンクのウサギ、ウルトラマンとミッキーマウスなどが手から外れて大空を高くおよぎフワフワと昇っていくのを。そんな想いを胸に7月13日、20日の2日間「バルーンアート」の講座に出席いたしました。カラフルな風船帽子を被った童女のような「スマイル・バルーン・クマ」先生の丁寧でやさしい指導のもとで細長い風船(20cm位)と空気入れを手に【空気を入れる】【結ぶ】【ひねる】の3工程を基本に、剣、犬など比較的簡単な形から教えていただき、ひとつ出来上がる度に嬉しくてお互いに比べっこ。しかし力の入れ具合、ひねり方のコツがうまくつかめず、折角ふくらませても空気が抜けてしまったり逆に力を入れすぎて、パーンパーンとあち

こちで破裂音。その度にキャッ!!アアと悲鳴や笑い声。だんだん手の込んだキリン、ぶどう、ボールなどにも果敢に挑戦しながら時間も忘れて無心に向き合った2日間でした。

8月27日の「福祉大会ボランティアフェスティバル」で飾りつけ用、お土産用の「バルーンアート」の製作を担当しました。少しずつ練習をして、なかなか早く仕上げるまではいきませんでした。当日は集まってこられるご家族や子どもたちの笑顔を想像しながら心を込めてお手伝いをさせていただきました。



私たちの活動紹介

糸魚川国際交流協会

斉藤 恵美子

糸魚川国際交流協会は、平成11年に「日本語ネットワーク」として、市内の外国籍定住者を対象とした日本語教室をスタートさせました。その後、地方の国際化に伴い当市でも外国籍住民の増加が進み、日本語支援だけでなく多角的にサポートできる団体の必要性から、平成20年から現在の糸魚川国際交流協会と名称を改め、“多文化共生のまちづくり”をキーワードに、17名のスタッフと日々活動に取り組んでいます。

活動の当初、受講生のほとんどが日本人の配偶者をもつ、いわゆる“外国人花嫁さん”と呼ばれる人達でした。しかし、現在は海外からの研修生、実習生、英語指導助手等、様々なバックグラウンドを持つ受講生が日本語を学びに来ています。

言葉が通じないために色々な問題が起こります。まず生活言語を習得すること、次に読み書きの能力。言葉さえできれば解決できることがたくさんあります。外国にルーツを

持つ人々が住みやすい社会は、当然日本人にとっても住みやすい社会であると考え、よりよい糸魚川市になるよう、その手助けが協会の使命だとも考えています。

教室は毎週金曜日 午前9時半～11時15分

毎週水曜日 午後7時～8時30分

隔週土曜日 午前10時～11時

レベル別のコースがあり、無料で受講することができます。また、生活支援講座、外国人生活相談、外国籍児童の日本語支援も行い外国籍住民の社会生活向上のために知恵を出し合い取り組んでいます。又、ボランティア日本語講師養成講座も開講しています。日本語支援に興味のある方、参加してみませんか？



糸魚川更生保護女性会

小田島 道子

戦後間もない日本は、戦争孤児があふれ、悲惨な状況にありました。子供たちが何とか健全に育って欲しい、という切実な思いが発足の原点です。全国につながる組織です。

- 研修・種々の施設慰問
- 関係機関・団体との協力
- 関連する地道な活動

これらの趣旨をブレさせることなく、身近なことから、大きなテーマに至るまで色々な活動をしています。

一例をあげますと、毎年中学卒業生に手作りの「エチケット袋」を贈っています。身の回りを整えて心も整えて欲しいという願いからです。また「社会を明るくする運動」の一環として、糸魚川の地区毎に「ミニ集会」を開き、地域の実情を学びます。そして何より更生女会の圧巻の活動は、刑務所や少年院、ダルク等を訪問し、その存在

を心に刻み、継続して心寄せていく活動です。ただ現在コロナ禍により直接の訪問はできません。とても残念です。その他多岐にわたる活動は、年2回発行の「更生女だより」で紹介しています。

時代は大きく変わっていきます。しかしSOSの声はさらに深刻に世界中から聞こえてきます。どんなにささやかでも、更生女会の歩みを途絶えさせるわけにはいきません。

とは言え、これまでどんな時も絶えることなく活動を続けてきた更生女会も、ご多分にもれず会員の高齢化はまぬがれません。熱い思いはあふれど体はついていけず…どうぞ次に続いていく方々のご参加を心よりお待ちしております。見えない世界が見え、やらねばならない事柄が示されてきます。



完成したエチケット袋



小物作り（エチケット袋）

編集後記

線状降水帯の突然の発生と停滞がもたらす豪雨と災害の一方では観測史上例をみない猛暑。日本だけで

なく世界的にもこの異常気象は頻繁に発生しているようだ。そしてコロナ感染の第7波。緊張の日々に少しの息抜きを。
広報部 杉ノ上